

# 2017年2月17日 第3189回例会

於： 横須賀商工会議所



- <点鐘・開会> 12:30 谷 会長  
<斉 唱> 「それこそロータリー」  
<ゲスト紹介> \*元国土交通省河川局長／  
NPO法人日本水フォーラム代理理事・事務局長 竹村 公太郎 様  
\*米山奨学生 朴 熙泰 様

- <会長報告> \*第8回理事役員会 報告  
\*ガバナー事務所より  
・青少年交換学生オリエンテーション開催の件について  
3月4日(土) 14:30~16:30 於：藤沢駅南口 第一相澤ビル  
・第1グループIM (Intercity Meeting) 開催のご案内について  
4月2日(日) 11:30~12:30 登録・昼食 12:30点鐘 14:00閉会・点鐘  
14:00~14:30 懇親会 於：横須賀商工会議所  
・2017年度地区研修・協議会開催のご案内について  
4月16日(日) 登録：11:30~12:30 研修・協議会：12:30点鐘  
懇親会：17:30~18:30  
於：立花学園高等学校(足柄上郡松田町松田惣領307-2)

<幹事報告> \*例会終了後第2回被選理事役員会 開催(例会場)

<出席報告> \*出席委員会 澤田委員長より2月17日の出席率

会員数	出席対象者数	出席数	欠席数	メイクアップ数	出席率
111名	94名	61名	33名	4名	68.42%

## <ニコニコ報告>

- ・三 役 NPO法人日本水フォーラム代表理事・事務局長 竹村公太郎様、本日卓話楽しみにしております。宜しくお願いします。
- ・勝見、植田、福西、信木、田邊、薦野、鈴木、井、荊、佐久間、藤村、三堀、根岸、長尾、岡田、江沢 各会員  
NPO法人日本水フォーラム代表理事・事務局長 竹村公太郎様 本日の卓話よろしくお願ひいたします。
- ・勝間、齋藤、佐久間 各会員 米山奨学生 朴熙泰君ようこそ。
- ・8番テーブル小山サブマスター 昨日は大勢の方に参加して頂きありがとうございました。また、西村マスターには、美味しい料理を提供して頂き、大いに盛り上がる事ができました。是非2回目との声が上がりましたので、企画致します。
- ・飯塚、前川、澤田、渡邊、齋藤、新倉 各会員 2月16日にとっても和やかな雰囲気の中、平安閣にて8番テーブルミーティングを行いました。西村マスター、小山サブマスターお疲れ様でした。齋藤眞且会員、美味しいオリーブと赤ワインの差入れありがとうございました。
- ・鈴木 会員 2月11日、料理製菓作品展、多くの方々にお越し頂き、ありがとうございました。I really appreciate for coming to "Culinary & Pastry Exhibition"
- ・高橋 会員 鈴木之一会員、先月の敷島祭では珍しい料理、製菓を見学させて頂き有難うございました。
- ・太田 会員 久しぶりに出席します。
- ・波島、上林、物井 各会員 太田さん、お久しぶりです。
- ・徳永 会員 信木さん、先日は大変おいしい食事と景色の良いお部屋、ありがとうございました。一同大変感謝しています。

- ・瀬戸、萩生田、池上 各会員 今年も花粉の季節となりました。皆様お気を付けください。
- ・山下、加藤(備)、瀬戸、大竹、ENORA 各会員  
今日春一番ですか？花粉も飛んで、もうすぐ春ですね～。
- ・薦野 会員 谷会長から写真をいただいて。

<卓 話>

## 「日本文明と横須賀の謎」

元国土交通省河川局長／  
NPO法人日本水フォーラム代表理事・事務局長  
竹村 公太郎 様

今日は、何故頼朝は鎌倉へということと、横須賀の謎を少しお話させていただきたいと思います。

私も全国各地人生転々と10か所以上の都市を転勤して住んでおります。ですからただ出張といったわけではなく住んだという事でして、私は他の人に比べて威張れる事は全国各地に住んだという事でして、土地を比較して表現できるという事が私の特徴と思っています。私は元々土木屋で歴史家ではありませんので、地形から見ると思う事がたくさんありましたので、この年になってやっと嫌いな歴史を地形から見ていこうという形の作業に入っています。その一つで一番最後まで残った自分の故郷の横須賀



ってというのが一番分りにくかったのですが、最近ほぼ整理ができましたので本当かどうか分かりませんが、私の仮説を聞いていただきたいと思います。頼朝の鎌倉の謎なんですけれども、まず鎌倉狭すぎるんですね。頼朝は閉じ籠ったとしか思えないほど鎌倉は狭いのです。鎌倉の当時の人口は3万～5万と言われていました。今でも6万です。鎌倉時代から今を見たら10倍近く日本の人口は増えていますね。それでもこの鎌倉だけは人口が増えない、つまり自然が守ってしまっているということです。平城京は10万～20万、平安京は10万～20万と言われておまして、頼朝が作る前の都と比べても鎌倉は桁違いに小さい、または貧弱な場所です。何故かという、**事実頼朝が鎌倉にやったってことは言うのですが、歴史家は何故こんなところに籠ったのかって事をなかなか言ってくれないので、私の仮説は平安京ですけれども、平安京(写真)の下が羅生門です。**頼朝が閉じ籠った理由は、鎌倉の切り通し(写真)。ここには皆さんも行ったことがあると思いますが、非常に狭くて一人がやっと歩けるような感じで、こんなところを守るには鉄砲も何も要らない、上から石を落としたりそれで終わり非常に守りやすい所です。この守りやすい所に加え前の由比ヶ浜も非常に守りやすいです。前面に砂浜があるってことは大きな船が接岸できませんから。接岸して上陸したら足が30センチも水に入ってしまったらそれでも身動き取れなくなりますので、どんどん矢で射られてしまう。上陸は一番難しく、岸壁にドン付けすればいいのですが、砂浜に付けるのは極めて難しいということで、この鎌倉は由比ヶ浜と背景の山に囲まれて極めて防御の堅い都だったわけです。**さて京都なんです、京都というのは平安京で非常に美しく羅生門、そして祇園町と言われておりますけれども、これが羅生門(写真)です。**実はこれは黒澤明の羅生門のモデルです。こういう形だった平安京は、平清盛が武家の頭領を取ったのですけれども、芥川龍之介が短編の「藪の中」と「羅生門」で見事に当時の事を描いて、それを黒澤明が見事にビジュアル化した、視覚化したということでして、このことを思わないと頼朝の気持ちが分からないわけです。意外とそういうところにフィードバックしないのは歴史家の先生方で、私は素人ですのでこういうところにフィードバックせざるを得ない、すると非常に解ってくるということなんです。何かといいますと、祇園祭というのは疫病の厄払いなんです。鴨長明の方丈記で京都の災害、飢餓、疫病で4万人の死者が出た。20万人の京都で4万人の死者が出て鴨川が死体で埋まったってことは5人に1人が死んだって言うことで、これは途方も無い地獄みたいな場所です。それほど京都は汚い荒れたところになってしまった。荒れた理由は何かという

これは排泄物です。20万人の人間が排泄物をその辺にほっぽり出して、朝廷の排出物だけはちゃんとお盆に持って鴨川に捨てたと書いてありますが、あとはその辺に捨ててしまうのでこれはもうひどい状態になるのは当たり前です。一方頼朝は平清盛を討って、その時彼はこれを見たのですね。では一体頼朝とは何者だったのか。蛭ヶ小島に14才~34才まで流されていたわけです。みなさん蛭ヶ小島というととんでもない伊豆の島だと思っていたでしょ？私もずっとそう思っていましたけど違うんですね、沼津の狩野川のだ真ん中です。狩野川の洲に散っている地名に蛭ヶ小島があって、そこに流されたわけで、そこに14才~34才まで20年間いたんです。14から34というのは決定的に人生に影響を受ける時でして、まさに青春時代です。何故あそこかという西の朝廷から見て富士山と伊豆半島の山々の屏風が文明の果てだったんですね。一番端だったんです。此処から先は文明が途絶えるところで、頼朝は文明の端っこのこの伊豆に流されたわけです。頼朝が、この14才~34才の元気のいい奴がずっと蛭ヶ小島にいるわけがなく彼は何処に行ったかという三浦半島と房総半島です。ですから頼朝が決起したとき三浦族と千葉族が付いていったのです。頼朝を一番支えたのが三浦族と千葉族で、何故この三浦族と千葉族が頼朝を支えたかという、彼は20年間ここで遊びまくったわけです。酒を飲んで、コミュニケーションしまくっていたんですね。伊豆の山を越えてしまうと朝廷の目は届きませんし平清盛の目は届きません。彼は相模湾と東京湾の間を楽しく遊んでいた、熱海の温泉もありますしね。酒もおいしいし魚介類もあるし、私から言わせれば彼は綺麗な湘南ボーイだったんですね。この湘南ボーイの頼朝が恐れたのは何かという、よく歴史家の本を読みますと頼朝は平家の残党を恐れたと言われていたんですがこれは嘘で、平家は壇ノ浦で滅びています。

平家の主要な人物は皆死んだり捕虜になっています。もちろん残党は何処か山の上に隠れたかもしれませんが、平家の落ち武者ということで。間違いなく平家の本体は壊滅しましたので平家の残党を怖がって鎌倉に閉じ籠ったわけがありません。結局頼朝が恐れていたのは流人なんです。都を作ると、とめどもなく流人が入り込んでくる。つまり大きな都を作ってそこを首都とすると地方から流人が入ってきてその町が侵されていく、つまり人間自身に侵されていくことを彼は知っていた。あの広い平城京と平安京が同じような形でつぶれていきますけれど、あそこはもうだだっ広く開けたところで、あそこに行っただけでもう駄目だとの事で鎌倉に閉じ籠ったと私は考えています。

もう一つこの鎌倉が素晴らしいのはゆっくりと由比ヶ浜に向かって傾斜しているんですね。傾斜しているということは自分たちの排泄物をバクテリアが食べて、そのバクテリアをプランクトンが食べて、そのプランクトンを小魚が食べてといった生態系の循環体系つまり食物連鎖が形成される地形なんです。今は近代的になってはいますが、もし鎌倉が他から途絶されて自分たちの排泄物を由比ヶ浜にやったら今でも由比ヶ浜は綺麗な豊饒な海になって自立できると私は考えています。この地形、ゆっくり海に向かった坂道をとったというのは見事な都市計画なんですね。

どうしてもわからないことは、何故鎌倉みたいな都に住んでしまったのかということですか？鎌倉というのは完全に盲腸です。横須賀そのものが盲腸なんですね、日本の大動脈から見たら。東京、大船、小田原、静岡これがメインの大動脈ですから知らない人は鎌倉、横須賀というのは結構間違ってしまうんですね。

行き止まり、盲腸のところに都を作ったという人は世界にもいなくて、どんな人でも大きな動線の上で作ります。ところが歴史の中でこの鎌倉だけが盲腸の上に頼朝が都を作ってしまった、これが疑問です。

地形の素晴らしさは解ったんですが、何故あんなに端の鎌倉に都を作ったのか、それでは京都を見てみましょう、京都は日本の要なんです。日本列島を歩くとみんな京都に行ってしまうんですよ。日本海を歩いていくと園部の方から、瀬戸内海の山陽道を歩いていくと大阪にはいかず京都なんです。海から来た人は大阪を経由し淀川を通して、京都から大津へ山を越えると今度は北陸道、中仙道、東海道、日本列島を歩いていくとみんな京都に集まってしまうんですよ、不思議と。これは地形上の問題で、世界の文明の中でみんなが歩いていくと一箇所に集まってしまう文明なんかありません。イギリスでもアメリカでも何処かに行ってしまう。メソポタミアもエジプトもそうです。日本列島だけは列島の中を歩くと京都に集まってしまうんです。京都が何故あんなにも汚いところだが朝廷が頑張ったかという、やはり情報の核だからです。情報を持っていないければ権力も持っていません、情報だけが権力なんです。ですから朝廷には横になって寝ても世界の情報が入って来たんです。ところが東北や北陸や四国の方々は情報を取りに行かなければならなかったが京都に居る人は情報が入って来た。だから幕末、封建国家から国民国家に変換するとき江戸ではなく京都が舞台だったのは、京都にみんな集まって情報の交換があったということで、いかに京都が千年の重要な場所だったかという情報なんです、その情報を頼朝は否定したんです。何故かという鎌倉の当時



の地形を考えなければだめで、これは私もうっかりしていました。これは現在の関東ですが、6千年前の縄文時代は海面が5メートル高かったので5メートル高くすると関東は海の下になってしまうんです。縄文時代に関東は無かったんです。5メートル上げただけで関東平野は無くなってしまいますが三浦半島は残っていますね。頼朝が頑張ったときには海面は下がってしまっていて、この一帯はべらぼうな日本一の湿地帯であったんです。これは地形的に間違いないでしょう。関東地方の縄文の海図からも関東平野が湿地帯であったことが良く分かります。これが日本列島の黒潮と親潮。上からが親潮、下が黒潮、これがどこでぶつかるかというところ。銚子でぶつかるんです。銚子でぶつかって太平洋に流れるんです。銚子というのは極めて危険なところ。西から東へ向かおうとする海流に乗り切らなかったんです。ではどうしたのかというところ。小田原から箱根を越えてきた人は鎌倉を通過して横須賀に出て対面の千葉に渡って栃木に行くか、霞ヶ浦のほうへ行って銚子を乗り越えて海の方へ出て行くか、甲府から来た人は厚木の相模川を下って平塚に出て平塚から鎌倉横須賀そして房総半島に渡るか、海から来た人たちも横須賀へ行って岸壁につけて三浦半島で休んで銚子へ渡ってそして陸路へ行くかです。何故陸路かというところ。大昔は銚子を乗り越えられなかったんです。ですから長野方面から来た人は湿地帯の関東平野を避けて利根川の上流を渡って栃木足利から郡山へ、つまり江戸ってのは空白地帯で人が立ち寄りなかったんです。ですから鎌倉は情報の流通の根になっていたんです。鎌倉と横須賀が情報流通の根だったんです。徳川家康はなぜ田舎の江戸に行ってしまったのかというところ。江戸は当時悲惨な場所で、数百の農家しかなかったと記録されています。当時日本には一千万以上の人がいいたので小さい集落には何千人何万人という集落が点在していたんですけれども、江戸には数百しかなかったんです。ほとんど誰も居なかったのに何故江戸に戻ったか、一つの仮説があります。イギリスの歴史学者が日本の自社仏閣に入って縁起物をチェックしたところ、いつ改築されたか描いてあるんですね。そうしたら戦国時代に何処から木を持って来たかというところ。西は山口、高知、紀伊半島全域、石川の能登半島全域、伊豆半島までだったんです。もう少しで三浦半島もやられるところだったんですけれども。この状態は戦国時代には京都大阪は禿山だったということです。人間なんてすぐ禿山になってしまうんです。これ比叡山ですが、神聖な比叡山も禿山だったんです。人々が生きるということは山々を禿山にしてしまうということです。実は、日本全国青森から鹿児島までの写真がありますが、それを見たとき、見渡す限り禿山で明治時代はそれほどひどい禿山だったということです。家康が戦国時代関西で暴れていたときに何故箱根を越えてこっちに来てしまったかというところ。関東が緑が豊富であったことが幕府を置くだけではなく徳川家の存続を考えて、箱根を越えて文明の果ての関東に来た理由だと考えています。三浦半島が近代の玄関口に何故なったのか、これはペリーが来て久里浜に上陸して、久里浜が砂浜であったので浦賀に誘導され、これで浦賀が本拠地になっていきましたが、では何故横浜が近代化の玄関口になったのか。横浜は干潟が無かったんです。干潟があると船が座礁してしまいますから。つまり黒船も一切東京湾に入って来られなかった、どこに浅瀬があるかわからないですから。ですからこの浦賀沖にペリーが拠点を構えて東京湾に入って来なかったのは当たり前といえば当たり前なんです。

横浜と横須賀の関係が分かったところで、何故明治政府は横浜を玄関口にしたかというところ。横浜には大きな川が無くて、また東京に最も近い岩場で、それでいて歴史が無かった。歴史があると厄介なんです。この関東地方で大きな川がなくて、東京に近い岩場海岸で歴史の無いところが良いんです。この条件に合うのが横浜でした。ということで、横浜、東京、横須賀、鎌倉の関係を見てみると横浜が一番東京に近くて岩場で歴史が無い、歴史があるとそこに様々な人間模様があって開発するのが難しい、歴史の無いところで大規模開発を行なうのは基本的な施策です。私も横浜育ちですが、横浜は歴史がなくて三代続いた人間はいないのではないのでしょうか？江戸時代から横浜にいたなんて方はいないですね、みんな開港以降ですよ。横須賀にはいると思いますよ、横浜なんか全国から集まってきた風来坊ですよ。ですから横浜がラジカルで自由な都市ということはそういうことなんです。タブーが無いんです。理論的に正しければ“うんそうだね”で通ってしまうんですよ、ほかのところだと理論的であっても歴史が違うよになってしまうんですが、横浜というのは近代的で合理的に物事が進んでいくわけです。

というわけで頼朝から始まってこの横須賀というのは現在アメリカの海軍第七艦隊、海上自衛隊がいて、日本の防衛の要になっています。この近代の状況を見ると日本国の守りというのは重要になっていて、古代近代の日本流通の拠点が横須賀だったと、そして江戸時代の守りの要が横須賀だったと、そして21世紀の今、日本国の守りの要が横須賀だということが私の最近の地形を考えたら横須賀の謎をお話させていただきました。

<閉会・点鐘> 13:30 谷 会長

週報担当 信 木 啓 輔